

人は環境をつくり
環境が人をつくる
キーワードは
MOH(もおっ)

M もったいない
他の生命を奪って得たものを使わ
せて頂く

O おかげさま
人は一人では生きられない、環境
によって生かされている

H ほどほどに
欲はほどほどに、環境を作り上
げるために

M・O・H

通信

2号
2004
August



「M・O・H」のマーク = 牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタン
ガスになり、肥料にもなります。大地を作り、
食物を育て、生物を養います。私たちは命の
源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、
循環型社会の象徴とします

目次

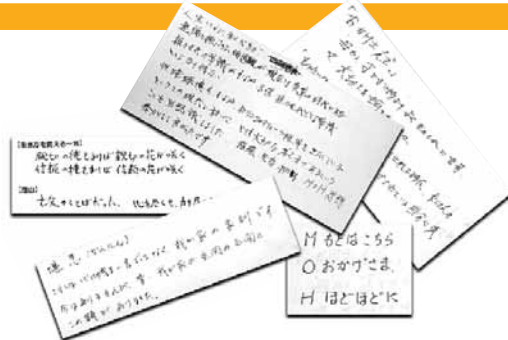
「自給自足の暮らし」 山崎隆	1
「親子関係を考える」.....	3
「聞こえた声」 今関信子	5
細江区まちづくり講演会(感想).....	6
「環境倫理の必要性」 本田裕志.....	7
「お金が減るからもったいないのか」 森建司...	9
「MOHの窓」.....	10
講演日記.....	11
「小学」を学ぼう 井上昌幸.....	12
野洲町生活学校.....	13
お知らせ、募集 編集後記.....	裏表紙



大津市/澤田 喜代一 (50歳)

投稿コーナー

今回もたくさんの方が
ら投稿を頂きました。
一人に二つ 教訓がある
んですね



「子どもに「本読んで」って言うてもら
える時が人生のゴールデンタイムです
：小澤俊雄 守山市/藤井 絢子
「如実知見」
ものつくり携わって32年、素直にもの
のを見ると見えてくる
大津市/澤田 喜代一 (50歳)

「堪忍(かんにん)」
これは我が家の家訓です。昔玄関の正
面に額がありました。
枚方市/御池 宏 (64歳)

「自己をはこびて 万法を修証するは迷
ひとす。万法すすみて 自己を修証する
は悟りなり」
神戸市/宮本 光晴 (57歳)

「マザーテレサの紙コップ」
マザーテレサが来日したとき、新幹線
の中で紙コップの水を飲まれました。
飲んだ後紙コップを「メモにします」
と書いて丁寧に持ち帰られたそうです。
早原 友紀 (29歳)

「ありがとうございます、すべてを受け入れ、その
後対処する。」
柳川市/伊藤 法博

「親切の種をまけば親切の花が咲く
信頼の種をまけば信頼の花が咲く」
亡父のことばだった。心を尽くせ、力
を尽くせということが。
小山市/塚原 俊夫 (53歳)

「求即是得 捨即是非 求めよしからば是
を得ん。捨つればすなわち是を失つ」
高校を卒業後、大学進学を希望してい
ました。向学心に燃えていた頃です。し
かし父の病氣、逼迫する家計に断念せ
ざるを得ませんでした。そんな頃、恩師
とも言える助教に出会い、この一言
を教わりました。その後、働きながら学
び、公立高校教諭そして、市議への道を
歩んで11年になります。
鳥栖市/太田 幸一 (55歳)

「はたらく=生きる=楽しい=正しい」
こんな生き方ができないかと考えてお
ります。八日市市/竹中 聡雄 (50歳)

「MOH発会の理念」
ここ何十年か考えてきた到達点が本当
に一致していて驚きました。中略
ものを得る擬似的自由から真の精神の
自由、豊かさの価値変更、国民・人間
としての誇りを自覚しなければならな
いと思います。理念の普及にお手伝い
したいと思います。

自給自足の暮らし

「麦の家」主人
山崎 隆さん

失われし農の道
心豊かな世を目指し
次代に贈る
麦の家

自然と共生し、人と語らい、
土と触れ、自律の精神を培う、
簡素で祈りある…暮らしの場

美しい農家

「草を引くと、引きちぎれた草は、
しばらくすると、間違えなくまた、芽
を出します。間違えているのは人間
だけ。環境問題は人間の心の問題で
す。自然はすべてが循環するんです
が、うまく循環できていないのは人
間だけ。」俺がお前が「と我を張る
ことが、厄介ですわねえ。」と、柔らか
なまなざしで語る山崎さん。

比叡山の麓の小さな谷間に、よしむら 葎
屋根と田んぼと畑と清流が調和した
「麦の家」があります。対岸の三上山
が眺望できる、美しい里です。

ここは、終戦の年昭和20年、故松
井浄蓮翁が家族と入植、同志と共に



開拓した地です。自然の恵みを分かち合い、衣・食・住、自給自足で人が暮らす場として、山崎氏と松井翁の愛娘京さん（日枝紬織り指導者）の夫婦で引き継ぎ、家族と同志が支えています。

山崎さんは昭和23年富山県の農家に生まれました。その頃、農民道とあって、農民が世の中を興す、精神性と増産を高め、農から幸せな生活を作ろうという農民塾がありました。（昭和24年「萬世協会」が創設されましたが）。これの創始者が、故松井浄蓮氏でした。

山崎さんのお父さんも松井翁の教えを受けていました。山崎さんは快適な人生を過ごしていました。大学に進み、公務員になり、国の仕事にも取り組んでいました。将来は明るかったのです。

しかし42歳の時、転機は訪れました。昭和27年から彼の人生のほとんどとかかわりを持っていた、「麦の家」の後継者として白羽の矢が当たったのです。



日本でも数少ない「小石丸」。「麦の家」で春に養蚕、日枝紬の貴重な素材。

自給自足の覚悟

覚悟が必要でした。キャリアを投げ出し、「農&自給自足」の世界に身を置くのです。彼は考えました。「農業って何なのか。」その時、先代から『何もかも求めてはいかん。根本を次代送りすることが農業だ』と教えられました。

確かに、彼は農家の息子です。土の扱いは慣れていません。一回切りの人生、「自分しか出来ない」と、確信しました。そして、飛び込んだのです。自給自足の世界へ。

飛び込むと、すべては、自然と土が教えてくれました。簡素で祈りのある暮らし、究極の美学です。京さんに「一緒にやりますか」とプロポーズ。山をはね、石を積み、門を作り、石組みで池を作りました。開拓当初、山から岩が出てきました。根のはった立派な岩です。その岩を中心に田を造営し水を上流から引きました。田植えの時には、岩に注連縄を張り、お田植え祭をします。自然への感謝と畏敬をこめて神に祈ります。

縁側に座っていると、目の高さで稲穂が揺れます。恵みに感謝し、慈しむ、家人の想いが伝わります。

土を見直そう 農業は文化だ

「水質保全に大切なことは、土」です。人糞を薬品で浄化して、残留物質が水質に影響を与えることはないのでしょいか。人糞を土に撒くと、

と、とてもいい肥料になります。土と太陽とバクテリアが上手に分解して、植物に力を与えます。環境に悪い影響は残りません。私たちは米、野菜を頂きます。そして排泄した人糞をまた、土に撒く。資源は循環するのです。古来から伝わる農法に間違いはないのです。工業化、科学化が進んで暮らしは便利になり、豊かになったけれど、人の心や環境は荒んでしまった。」

麦の家の暮らし方を根っこにおいて実践していることに誇りを持ち「大切な宝を育んでいる」と、山崎さんは確信を持っています。研究者の先生方もこの暮らしを心から大切に思っておられるのですから。

「目の届く範囲の生産力で家族と働き、人が集い、うまい酒が飲め、うまいご飯が食べられ、郷土愛する心を育むこと、これが幸せです。」



猿、猪追いに活躍、愛犬のタローちゃん。

世作りは成長をセーブすることから 己はどう生きるべきか、語れる言葉を持つ

山崎さんが理想とする、都市の姿は「分散型の小田園都市」、自律した社会です。自律とは成長をセーブし、世の中を見通す目で、社会環境を作ること。何よりも、使命を実行するための「自分の言葉」を持つ事が大切です。

新しい発想より、原点に戻る事が重要です。人間どうあるべきか、どう生きるべきか何が必要で、何が不要か。クリーンな境地で己を見つめなおすこと。これが人を育て家庭を作り企業を健全にする原点だと想います。「新しい世作り」が必要です。

麦の家
山崎 隆

やまざき たかし ●昭和23年、富山県に生まれる。昭和42年、松井浄蓮師に出会い師事。昭和46年大学卒業公務員となる。昭和51年「(財)萬世協会」専従。平成4年「麦の家」主宰。
〒520-0113 滋賀県大津市坂本1丁目3-50 財団法人 萬世協会

(写真) 辻村耕司、取材 辻村夢美

主婦の座談会

「親子関係を考える」

■平成16年5月9日(月)
■北びわこホテルグランチエ



夏休みを間近に控え、「家族とどう過ごそうか」と思案する方も増えていっているのではないだろうか。子どもにとつて、家族と過ごすことは楽しく、自然なことでありたいものです。この、貴重な時期に「親子」のことを考えてはいかがでしょうか。人生を大きく左右する「親子の関係」。

今回は主婦の方6人にお集まりいただき、座談会を行いました。年齢も環境も違う方々ですが、どんな話が飛び出すやら…。

●司会 本日はお忙しいところ、ありがとうございます。今回は親子関係を考えるというテーマで思うところをおしゃべりしてください。まずは、杉江さんからどうぞ。

●杉江 私は7歳を越えていますので、大津にいる息子と娘たちそして孫たちが歳ではないけれど、まだ、がんばれるぞという喜寿のお祝いをしてくれました。まだ気持ちもありますが(笑)素直に幸せに感じました。

私は、出歩くことが多い分、娘が家のことをしてくれています。これでええか、と納得しています。

●伊藤 親子って子どもにとって、考え方の元ではないでしょうか。私が両親から教わったこと、母親がしてくれたこと、言われたこと、すべて、当然ですが私の生き方の根本になっています。私の子どもは35歳に



なりました。夜中の乳やりとか、しんどかったです。子育て中はそんなこと感じもしなかった。今、おばあちゃんになつて母親がしてくれたこと、子にしたことを思うようになりました。子育てをしている娘を見ると、私も母親に育てられたんやなーと思うときがあります。子どもたちに与える影響は強いと思います。

●田中 私は、子育て真っ最中なので、とても親子を考えるまではいきません。子どもにどうしてあげたらいいのか、何をしたらあげればいいのか。今の生活は子ども中心です。子どもがいないと不安だし。上の子(小学4年男)は少し手が離れたんですが、下の子(4才男)は可愛い盛りで、仕事をしていても子どものことが気になります。まだ親子離れできてません。子どもと私で一つなんだなあって思います。

●横山 私も女の子ばかり3人姉妹(5才、4才、2才)で年も近いので難しいことがいっぱいあって、特別に親子関係って考えたことはないです。姉妹の真ん中って、お姉ちゃんと妹に挟まれてるからか難しいですね。大きな声を張り上げると「こめん」って自己嫌悪に陥るし、寝顔を見ると、可愛くて、自分に反省しています。毎日が子どもにどうしてやればいいのかなんて、悩んでいます。でも、喧嘩がすぐくて、真ん中の子の気持ちもわかるんですが、すぐ、すねる。私は兄と弟に挟まれた三人兄弟なので、あまり親に頼ることはありませんでした。この

子たちもそうなるんだろうなあ。

●島田 私は実母もいて女の子(5歳)一人です。母親になったり、母の娘であったり。今は母にしてもらったことを思い出しながら育てている状態です。ゆっくり、じゅくり、子どもに信頼される母でありたいなと思っています。お母さんが一番、安心して育ってくればと思っっています。主人が転勤もあって家にいることが少ないのがちょっと…。うまく関わってくれているのかなあ。幼稚園年少さまで憎まれ口を言うようにもなりませんでした。幼稚園のことをおしゃべりすることも多いので、笑いながら報告できる親子でありたいですね。

●小川 母と子の関係。生まれてきてくれてありがたうというか、25年間私を支えてくれたのは二人の息子(22歳、24歳)です。おかげで充実した子育てでした。私は全身全霊で子どもを守ってきたつもりです。今は、子どもが守ってくれています。忙しい主人との父子の関わりは、お父さんはこんな仕事をしているのよ。なのよ、我が家の大黒柱なのよとよく話をすることで補いました。父を大変尊敬しています。おばあちゃんもおりました。おばあちゃんの言葉が子どもの育ちの役に立っていてとても大切でした。私もいつの日か祖母になりますが、たとえ嫌がられても、孫育てには関わっていいうと思っっています。

●田中 私、方針って言うのがなくて、フラフラして…。



●伊藤 私も、その頃は自信なくて。これで良かったんかなあって…。悩み悩みの連続でした。田中さんの年代でこれが方針ってあるほうがおかしいかも。いろんな人の意見を聞いたり、しゃべったり、照らし合わせたりすることが肝心と、思っ。

●杉江 特徴のあることや、これが好きや、上手やと言うことを、ほめる。これが自信をつけさせる大切なコツです。ほめることで子どもは伸びる。田中さんの息子さん、曳山の役者ぶりは見事なもの。子どもの良いところを伸ばしていただけ、地域でありたいですね。



●伊藤 本当に、本人に自信をつけさせることって、ようやくたなあ、すごかったなあとってあげるのが一番ですね。私も、そうやって育てればよかった(笑)。

●横山 私、男の中で育ったでしょう。不思議なのは同じように育てても、上の子は女の子の子してるんです。下の子は反発キャラクターで、新幹線やトーマス君が好き。新幹線の運転手になりました。

●小川 個性ですね。

●杉江 いいですよ。その頃は何でも。

●小川 息子が小学4年の頃、中学校では校内暴力がありました。授業がままならない中学校もありまして、どこの学校行かせようかと迷いました。勉強とか気になりませんでした？

●伊藤 うちは勉強より健康。



●**島田** 集中力が大事かと。娘は泥団子にはまってるんですが、テレビで作り方の説明があると、書き取っているんです。

●**杉江** るほど、幼稚園教育って大事ねえ。

●**島田** ええ、小学校に上がるまでが、大切な時期だと思います。正座、お絵かき、テレビを見るのは一時間のお約束。

●**小川** 私たちの頃より、家庭教育がござりなのかな？

●**島田** 昔は父の背広のはぎれで母がスカートを作ってくれたり、手作りのお菓子やご飯を食べさせてもらって、貧乏ながらも川の字で家族が寝ていたものです。食生活が変化し、ミシンをかけたたり編み物をしなくても、抱きしめたり、話を聞いてあげたり「おいしいね」っていったり、感情を表現することが大事ではないかしら。

●**伊藤** 私も一所懸命にしているけれど、「こんなに中途半端でいいのかな？」と思うときがあります。子どもに聞くと「お母さん手作りしてくれたやん」と答えてくれますが…。

●**田中** これから不安で

●**伊藤** 親って迷いながら生きてるんですよ。子どもと接していると、カーッとくるときありますよね。私は、ここぞというときに、「お母さん低気圧やし、怒るよ」といって腹立ててました。子どもも予測できるし、私もスツとする。

●**横山** 子どもを叱ってる時、自分でも怖くなることがあります。ひどくなったらどうしようとか…。第三者がいたら、冷静になれるのかな。虐待って誰にでも起こりうるかも…。子どもが小さい



●**杉江** 5歳〜3歳児の保育所に行くのと、落ち着きのない子が多い。良くないなと思います。小さいときにフラフラすると癖がついてしまう。

●**小川** やっぱ、家庭ね。

●**伊藤** 団体生活の中で個性とお行儀のけじめをつけないといけないですね。孫が通う幼稚園の運動で、前へ習え“

気をつけ“をしているのを見ました。感心しました。

●**島田・横山** ないねえ

●**田中** 私はボランティアで小学校に行ってる読み聞かせをしているんですが、熱心に座って聴いてくれます。授業参観ではおりに座っている子が多いです。

●**島田** 昔は父の背広のはぎれで母がスカートを作ってくれたり、手作りのお菓子やご飯を食べさせてもらって、貧乏ながらも川の字で家族が寝ていたものです。食生活が変化し、ミシンをかけたたり編み物をしなくても、抱きしめたり、話を聞いてあげたり「おいしいね」っていったり、感情を表現することが大事ではないかしら。

●**伊藤** 私も一所懸命にしているけれど、「こんなに中途半端でいいのかな？」と思うときがあります。子どもに聞くと「お母さん手作りしてくれたやん」と答えてくれますが…。

●**田中** これから不安で

●**伊藤** 親って迷いながら生きてるんですよ。子どもと接していると、カーッとくるときありますよね。私は、ここぞというときに、「お母さん低気圧やし、怒るよ」といって腹立ててました。子どもも予測できるし、私もスツとする。

●**横山** 子どもを叱ってる時、自分でも怖くなることがあります。ひどくなったらどうしようとか…。第三者がいたら、冷静になれるのかな。虐待って誰にでも起こりうるかも…。子どもが小さい



ので、主人に預けるのも怖くて。

●**杉江** 孫は東京にるので帰ってくと、散歩に行くんですが、花が咲いていると「ママにあげるの」といって摘んでいます。やっぱり、ママが大事なんです。自信を持って。

●**司会** お話が弾んでおりますが、時間が参りましたので、最後に感想をお願いします。

●**横山** 毎日三人の子どもと朝から晩まで決まりきった生活で、考える余裕もない日々でしたが、今日は充実した一日でした。

●**島田** 先輩のご意見が聞けてよかったです。親に感謝し愛いっばいに、子どもと共に育って生きたいです。



●**田中** 子どもに愛を持って育てて生きたい。これからもありがとうという気持ちです。先輩の話を聞けてよかったです。

●**伊藤** 今日はよい機会でした。親がいて自分がいて、子がいる。世の中が変わりましたけど、しっかりした考えの方がおられてよかったです。親の問題はいつの時代も同じだと思いましたが。

●**杉江** 皆さん子育てに一所懸命で感心しました。日本の未来は大丈夫。がんばって子育てしてください。

●**小川** 今日は母の日ですが、一時間前に息子から「ありがとう」と連絡がありました。わたしも母に電話しなくてはいけなくて、ありがとうございました。

●**司会** 母の日に貴重なお話をありがとうございました。また、次回テーマを変えて、お話いただきたいと思っております。本日はありがとうございました。



出席者（敬称略）

●杉江正子 75歳 主婦 一元小学校教師、日赤奉仕団長、長浜支部委員長

●伊藤節子 59歳 自営業手伝い

●田中良美 39歳 自営業手伝い

●島田祥子 32歳 主婦

●横山由基 31歳 主婦

●「コーデュネーター」

●小川清美 49歳 主婦

●「写真」

●辻村耕司 48歳 カメラマン

●「司会・文章」

●辻村琴美 48歳 会社員

聞こえた声

今関 信子



イラスト：佐々木洋一

クリス・ムーンという人を知っているだろうか。長野オリンピックの時、聖火リレーの最終ランナーをつとめた人だ。あの時、クリスさんは、左手で、聖火のともるトーチをかがげ、開会式会場のゲートをくぐった。右手はなかった。右足は義足だった。

クリスさんは、イギリスのNGOヘイローで活動していた。ヘイローは、危険地域人命支援組織である。クリスさんは、軍隊にいたとき身につけた地雷除去の技術を生かして、世界各国で、地雷に苦しめられている人々のために、力を貸していたのだ。

その時、彼は、モザンビークにいた。現地の人に、地雷除去のやり方を指導していたのである。現地の青年が、事故にあって死亡した。「なぜ、爆発した？ 教え方が悪かったのか。」指導者としての責任から、夢中で原因を探していて、クリスさんは、脱水症状になっているのも気がつかなかった。そして、地雷を踏んでしまったのである。

手と足が、吹っ飛んだ。猛烈な痛みが襲ってきた。救急隊がかけて、麻酔を打つという。クリスさんはそれを断った。クリスさんは、錆びたナイフで、ちぎれた部分の始末をするような、モザンビークの医療事情を知っていたのだ。なんとか南アフリカの病院で手当てを受けたいと願った。麻酔を打ったら、何をされるかわからないと、必死だったという。

痛みが激しさを増してくる中で、クリスさんは、声を聞いた。「こっちにおいで。薬になるから。」闇が呼ぶのだそうなの。(薬になれるのなら…)クリスさんの気持ちがそちらに傾いたとき、もう一つの声がしたという。「クリス、よく考えたのかい。それでいいのかい」そう尋ねた声は、お父さんの声だった。その言葉は、お父さんの口癖だった。クリスさんはお父さん予だったらしい。お父さんは農夫だったから、幼い日、作業をするお父さんの後をくっついて歩いたそうだ。

痛みは止まない。あまりの痛さに気を失いかける。そんな時を狙うように、「こっちにおいで、薬になるよ」と例の声がささやきかけ

平成16年度細江区 まちづくり講演会 [感想]

前号で掲載しました。「びわ町細江のまちづくり講演会」では、たくさん感想を頂戴しました。1号では、全員の方を紹介できず失礼しました。27名の方の感想をご紹介しますが、紙面の都合もあり、代表的な感想を紹介します。皆様、貴重なご意見ありがとうございました。



● 近年、物が豊かになった。反面、失った物もつと大きいと聞いてきた。人が人として生きていく上で、最も大切なことは「心」ではないかと思える。近代社会になって、各種の犯罪が増え、相手(家族の中でも)のことを考える余裕もなくなってきていると思う。M・O・Hの基本理念となっている三本の柱は、今後、私たちから、子どもへ、孫へと引き継がれていく世代の中で、決して忘れてはいけないことではないだろうか。親の常識が通用しない社会になってしまったと言いう事が非常に悲しい。環境も含め人が人として満たされた生き方が出来る様になればと、思いを強くしました。

「人に迷惑をかけなければ何をしてもいいだろう」となるとんでもない。そんなことが認められると思っている人が多くいる。と、思うと情けない世の中だと思

える。…女 50歳

● “ほどほど”と言うことは印象に残りました。人生頑張りすぎず、子どもに望みすぎず、ガミガミも、欲もほどほどに。今後の人生が楽しくなりそうです。

…女 50歳

● 節約の勧めを主婦の雑誌でよく取り上げられていますが、なかなか実行できない。単に家計の手助けと考えていたが、環境にも結びつくのだ。主婦がもっと考えなければなあと思った。

倫理社会という哲学的な事や経済問題はまったくと言っていいほど解らないが(学校で何を勉強してきたのか、恥ずかしい)身近な環境社会、価値観から変えていくことと思う。…女 39歳

● 環境問題は自分ひとり心がけても何の変化もない、という考えがみんなの中にあるのでは？

スーパーの袋、トレイなどなくても買える物が出来る社会に。

「ありがと」の言える子になって欲しい。…岩垣 浩一 40歳

● 食事の前にみんなそろって手を合わせて「いただきます」を家中で実行していますが、本日お聞きしたことの大切さにもつながる！と意を強くし、孫たちにも伝えて行きたいと思いました。M・O・Hの心。…女 58歳

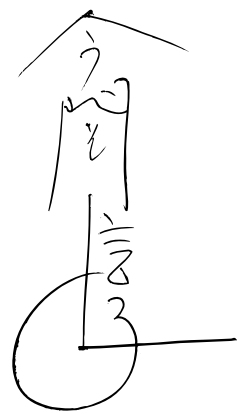
● 「もったいない」というと子どもは「もったいない」に反抗してくる。世の中にモノが有り余っている時代に生きているのだからしょうがない、と思うが…そのうちに、子どもにもわかる時がくるであろう。

直して、直して使っています。

…森 綾子 66歳

てくる。クリスさんの気持ちが揺れる。すると、必ずお父さんの声がいうのだそう。「クリス、よく考えたのかい。それでいいのかい」と。闇の声とお父さんの声が、痛みと戦うクリスさんをひっぱりあいつこしている。クリスさんは、お父さんの声で踏ん張った。そして、命を取り留めたのである。

1998年、夫の仕事の都合でロンドンに滞在していて、私は、この話を直接クリスさんから聞いている。たんと話してくれたクリスさんの話を、私は、ときどき聞いていた。ここ一番というとき、聞こえてきた親の声。土壇場の時に語り掛けてきた言葉。親の思いは子ども心に滲み込んで、生きる力となるのだと感じたエピソードだった。私はクリスさん親子の絆の深さを感じた。



いませきの心 ● 1942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

主な著書／「小犬の裁判はじめます」1987重心社。青少年読書感想文コンクール課題図書

「さよならの日のねすみ花火」1995国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財

「地雷の村で『寺子屋』づくり」2003 PHP研究所

など多数

「環境倫理の必要性」

本田先生の倫理学講座
Part.2

本田 裕志

前回、「環境倫理とは」というタイトルで哲学倫理学や「環境倫理」はどのようなものを考察しました。今回はその必要性についてお話ししましょう。



■私の稼いだお金を好きに遣って何が悪いの

あなたの友人または身内に、むやみに衝動買いをしては、食べきれずに賞味期限の切れた食物や、着ないうちに流行遅れになった服などを大量に捨てている人がいるとしましょう。そして見かねたあなたは、要らないものは買い控えるように忠告したとしましょう。相手は多分こう言うでしょう。「私は自分で稼いだ自分のお金で、買いたいものを買っているのだし、私の買ったものはどうしようと、私の勝手です。私は欲しいものを欲しただけ買えて幸せなのだし、誰の権利も自由も侵さず、他人や社会に迷惑も損害も与えていません。それどころか、個人消費が増えて世の中の景気が良くなるのに一役買っています。だから、余計な口出しはやめてください。」こんなふうに言われると、あなたはもう何も言えなくなってしまうのではないのでしょうか。

■現代社会の常識

右の言葉には、現代社会の主要な常識・通念が集約されています。それは、(1)人の権利や自由の侵害、他人や社会の迷惑・損害等につながることはしてはいけないが、それ以外のことは自由にしてよいという対人的道徳観と自由主義、(2)幸福とは、欲しいものが(欲しい理由はどうかあれ)欲しいときに欲しいだけ手に入ることだ、という物質主義的幸福感、(3)必要があるうとなかろうと自分の金で何をどれだけ買っても(金を払う人に何をどれだけ売っても)よいし、買ったものは好きなように扱ってよいという、経済的自由と所有権の絶対視、(4)経済が好調で豊かな世の中はよい世の中だ、という経済至上主義、などです。これらの常識・通念は、現代自由社会の市民である私たちの骨の髄までしみ透って、日常の生活・行動を強く規定しています。右の言葉の抗しがたい力もここに由来します。

■常識に潜む問題点

しかし、そこには大きな問題点が潜んでいます。(1)の考え方は、私たちの行動が他人や社会に及ぼす影響のみを問題にし、他生物や自然への影響を考慮していません。人の迷惑にはならなくても、他生物の存続を脅かすようなことはすべきでないし、貴重な自然を守るためには、多くの人の損になっても実行しなければならぬ物事もあるという認識が、この考え方には欠けています。

また(2)と(3)の考え方は、人の欲しがるものを効率よく大量に生産する産業社会体制と、生産されたものを欲しがる人のもとへ迅速・確実に流通させる自由市場経済体制の維持・発展を必須条件として要求し、(4)の考え方はその必然的帰結です。しかしこの二重のシステムは、私たちの真の幸福に必要なものを生産し流通させるだけでは、円滑に機能できません。それどころか、必要限度をはるかに越えたものを、私たちに欲しがらせ、強いて買わせなければ存続さえできないのです。そこで種々のメディアを通じた宣伝により、急速に移りゆく流行やブームが惹起され、需要が人為的に「創出」されて、私たちは「他の人もみな買っているから」と言っては、自分にとって真に必要でも有益でもないものを次々に買い込み、「もう流行遅れだか

むだいずむ

© しみず やすお
買い物編 その1



素材の良さがあれば、無駄なケースは、必要なし!



今こそ倫理の出番です

けれども、環境破壊の深刻な現状を直視すれば、従来の常識や通念に従って人間の権利や利害だけに配慮し、大量消費・大量破棄を繰り返すことがいかに問題かは明らかでしょう。私たちは今こそ、既存の常識や通念に囚われず、現実そのものを前に、自分がどのように生き、行動すべきかを筋道立てて考えなければなりません。そう、倫理の出番なのです。環境問題に直面する現代世界がとりわけ切実に倫理を必要とし、その解決のために環境倫理が求められる理由は、この点にあります。

「ら」と言っは、まだ使えるものを片っ端から捨ててゆきます。この強いられた画一的消費行動は、本物の自由と幸福（各人の「らしさ」が生き生きと発揮された生き方）に反するのに、また貴重な資源を用いて生産され運ばれたものを無駄にゴミにすることは、二重の意味で環境の負担となるのに、そんなことはお構いなしです。

次は環境を考察しましょう

ただし、右の常識や通念は、最初から本質的に誤っていたのではなく、それに従った生き方が環境の限界につき当たった今日では、もはや時代遅れとなったのです。この点を理解するために、今回は「環境」の概念そのものを考察しましょう。

本田 裕志

ほんだ ひろし ● 1956年東京都生まれ。京都大学文学部哲学科を卒業後、東京大学で修士課程修了。現在は、龍谷大学文学部助教授。専門は哲学、倫理学。

主な著書／塚崎智・加茂直樹編『生命倫理の現在』世界思想社
加藤尚武編『環境と倫理―自然と人間の共生を求めて』有斐閣アルマ
(共著) など多数。

M・O・H 語録・考察
お金が減るから
「もったいない」のか

森 建司



イラスト：佐々木洋一

安いからもったいたくない!?

娘の一家と一緒に暮らしていて、時々納得の行かない判断基準を持ち出されて戸惑うことがある。娘には小さい子どもが三人いてヤンチャ盛りの、子育てで真っ最中と言うところである。

先日こんな事があった。育ち盛りの子ども達に着せるシャツや服を買うか買わないかの問題である。親戚から頂いた古着が沢山あるのに近所の中国で規格品を大量に生産している格段に安い某衣料店で買えば「安いからもったいたくない」という論理で、新しいものを買うと言う娘に、それは違うと言う論争をしようとしていたのであるが、「可愛い盛りの子ども達に古着ばかり着せとくのは可哀想や、子育てって一生に一遍の機会なんやから構へんのと違う?」という女房の一言でその場は終わってしまったのであるが…。

お金の価値とモノの価値

この場合の「もったいない」は正にお金の問題である。お金を使う人が納得して「この程度の出費であればもったいたくない」と言う判断で行動する。一方で古着が沢山たまっていることをどう考えるのか、そのあたりは抜きである。

ちよつと話が変わるが、出された「馳走は「もったいない」からとお腹が一杯で食べられない状態でも「無理して食べる」と言う人もいる。それでお腹を壊して薬や医師のお世話になるのであれば、なにおかいわんやであるが、その時は、残して出来ればバックにでも詰めて帰ってあとで頂けば、一番良いと言う事かも知れない。或いはそんな場合は健康の面から考えても残すべきだと言う人もある。どれが正しいかちよつと考えてみる必要があるだろう。



▲ 信楽町の「鶏鳴(けいめい)の滝」

滝の東方には伊賀上野から信楽へ越える御齊(おとぎ)峠がある。伊賀上野から近江、京都に出るには最短の行程となる。若き芭蕉もこの道を通り京に俳諧を学びに通ったという。〈辻村耕司〉

家族って？

私にとつての家族っていうのは、まず、助け合つもの。家族あつての私がいるって思うから、特に部活が辛い時は必ず家族の助けが必要になってくる。大事な試合の前、いつもとは違うピリピリした雰囲気の人に気を使つてくれる。イライラして八つ当たりしてもそれを受け止めてくれる。それが家族。試合で勝つた時は私以上に喜んでくれる。“よかったね”この一言が嬉しい。私がいままでやってきてよかったなって思う瞬間には必ず家族がいるんだ。普段なにげなく過ごしてる日々、これは家族あつてのもので、家族がいなかったら成り立たないだろう。空気のように、大

気になる言葉

切なもの。それが家族。
八幡商業高校 辻村咲姫
Q 現代の日本人に欠けていることは何でしょう
A 教育が役立ったのは経済の高度成長までです。他人と議論したり、言うべき時にきちんと意見をいう教育がなかった事が今日のいびつな時代を生み出した原因なのではないでしょうか

インターネット新聞(株)代表取締役

竹内 謙氏

(リンククラブニュースレター6より)

何が必要なのか、考えてる??

またお年よりの方から聞く話にこんながある。

『私は小さい時から「もったいない」で育ったから、今家に一杯ものが有って、居場所も無いような状態の中でも何も捨てられないでいる。家族に「邪魔になるから早よ捨てて」と叱られているんだけど、とてももったいなくて』と言うのである。

環境問題を語るときには良く「人口論・出口論」と言うことが言われる。「もったいないからこうしよう」と自分の行動を決めるときは、いつかと言うことである。人口論とは「買う前」に決める事。出口論は、家にあるものが「もったいなくて」捨てられない、と言うように出口で判断しようとする事。勿論「人口論」が正しい。家に有るもので間に合えば、新しい物は買わない。或いは消耗品でな

森林 建司

く、耐久商品のようなものは、大切に手入れをしながら長い年月を使っていく。そうすると家に価値あるものが存在感を持って「でん」とあり、それが我が家の誇りになっている、と言った具合である。家屋などは元より、自動車然り、家具調度品然り、衣類然り、時には電気製品も(?) 然りである。

もり けんじ ● 1936年、滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株) 代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会副会長、滋賀県教育委員会委員など
著書/吃音はなれる 遊タイム出版

講演日記

皆さまのご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。
ダイジェスト版で4月～6月の講演をお知らせします。

- 日 時：2004年4月3日（土）
- 主催者：びわ町細江区
- テーマ：「自分の生き方を決めた一言」
- 参加者：80名
- 場 所：びわ町細江会館
- 演 者：本田 裕志 & 森 建司
- 内 容：哲学とは一人間いかにいべきか。環境を守るため、倫理感を取り戻そう。お天道さんが見たはるでと、子どもに語ろう。

- 内 容：お金の魔力を解き放て、政治・環境・経営者は原点に戻れ。何が、今、必要なのだ

- 日 時：4月15日（木）
- 主催者：全国市議会議員セミナー（全国市町村国際文化研修所）
- テーマ：経済至上主義社会の衰退と、地域経済の活性化とは矛盾しない～近江商人の三方良しから何を学ぶか～



- 参加者：300名
- 場 所：全国市町村国際研修所（滋賀・堅田）
- 演 者：森 建司
- 内 容：社会のゆがみは、豊かさの弊害だ。モノの価値観を今こそ変えるべき。モラルについて、考えて欲しい… 乏しさを憂えず、乏しからざるを憂えよ…。

- 日 時：5月26日（水）
- 主催者：長浜工業会
- テーマ：会社見学と質疑応答
- 参加者：15名
- 内 容：新規分野に挑戦する心構えと社内体制

- 日 時：6月9日（水）
- 主催者：野洲町生活学校
- テーマ：「生活者M・O・Hの会」がなぜ必要になったか～環境をこれ以上悪化させないために～
- 場 所：滋賀・びわ町
- 参加者：27名
- 演 者：森 建司
- 内 容：幸せって何でしょう。駄目なものは駄目！と言い切る哲学。消費者が世の中を変えます。

- 日 時：4月20日（火）
- 主催者：長浜未来産業プラザ
- テーマ：環境倫理とは何か
- 参加者：50名
- 場 所：滋賀・長浜
- 演 者：本田 裕志
- 内 容：「共有地の悲劇」を繰り返さないために、経済性+個性+社会性=良い企業（食べていけて、世のため人のためになり、個性を生かした楽しい企業）を目指して



- 日 時：6月15日（火）
- 主催者：京都キャリア交流プラザ
- テーマ：「自立する中小企業の仕事探し」～見つけよう新しいビジネスモデル～
- 場 所：京都キャリア・サポートセンター
- 参加者：26名
- 演 者：森 建司
- 内 容：たんたんと死を迎えるように、本当の自分を見つけよう。新しいビジネスモデルが求められています。循環型社会へ時代が動きます。

- 日 時：6月22日（火）
- 主催者：大阪府工業協会 環境経営研究会
- テーマ：「グリーン購入と企業」新江州圏の環境への働きかけ



- 場 所：大阪府商工会館
- 参加者：18名
- 演 者：森 建司
- 内 容：自己矛盾が成熟したとき、本体は壊れる→今、家庭のモラル、企業のモラルを考えると、マーケットの拡大を望むな、存続する価値のある企業へ進化しろ

- 日 時：5月10日（月）
- 主催者：環境ビジネス創出研究会
- テーマ：循環型社会における経営哲学を求めて～循環（もったいない）共生（おかげさま）抑制（ほどほどに）～
- 参加者：12名
- 場 所：大阪産業創造館
- 演 者：森 建司
- 内 容：「安ければいい」→「これしかない」へ。なぜ必要なのかを考える→これが哲学

- 感想
全体的な感想… 大変役に立つ4名、役に立つ6名、参考程度3名、参考になった点…

- 日 時：5月18日（火）
- 主催者：NPO—EE ネット
- テーマ：循環型社会における経営哲学を求めて～循環（もったいない）共生（おかげさま）抑制（ほどほどに）～
- 参加者：80名
- 場 所：大阪・国民会館
- 演 者：森 建司



- ① 経営と環境の両立は言葉では簡単だが、実際は難しく苦勞をしているが、勇気を持てる内容だった（統括管理部）
- ② 自己矛盾から環境倫理への話の流れ、印象に残りました（製造本部長）
- ③ なぜグリーン購入に取り組んだか、また、循環型社会の形成についても非常に参考になった。色々な事例についても参考になることがあった（品質管理部部長）
- ④ 価値観の変遷、CSや企業モラルについて（生産本部SQE部）
- ⑤ 経営哲学がないと、環境への配慮も当然出来ない、と考えさせられる（環境安全室工務部課長）
- ⑥ ビジネスチャンスの話とグリーン購入のつながりをより詳しく聞きたい（研究所庶務課次長）

中国・宋の学者朱子が編纂した教科書

「小学」を学ぼう

井上 昌幸

●「小学」は人生の基本（道徳＝ルールを学ぶ）

一般に子供は成長するにつれて、小学校、中学校、高等学校、更に大学へとすすんでいきます。

江戸時代には、中国の古い書物の四書五経を学ぶことによって教養を身につけていました。その中の「論語」や「大学」などは現在も多くの人に読まれています。特に「大学」は近江聖人の中江藤樹が弟子に分かり易く解釈して説明したものが残っています。

中国の宋の時代に朱子（朱熹）（1130～1200年）と云う人物が「大学」も良いテキストであるが、もつと幼時から基本を学ばせる必要があると思つて、「小学」と云う本を編纂（へんさん）しました。そしてこの本が完成した時に朱子によって「序文」が書かれていますので、その内容から説明していきます。

「小学」は人間生活の根本法則であります。だから昔から幼児を教えるには「小学」から学ばせることが大切です。人間生活の基本は何と言つても「道徳」であつて、その「道徳」の基本的な情緒を培養して初めて人間生活は発達します。何ごとも、学ぶためには基礎知識がなければなりません。基礎知識がなくては学問は身につけません。何ごとかを進めていくためには原理・原則があります。基礎条件、根本法則、ルールというものがあつます。これが「小学」であります。

●基本となるのが灑掃・応対・進退

その基本となるのが灑掃（さいそう）・応対・進退です。灑掃というのは板の間や床を四つばいになつて雑巾（ぞうきん）がけをすることです。今は雑巾がけをすることがなくなつたので、整理・整頓・清掃することです。例えば玄関で靴を抜いた時に靴がきちんと並べられているか、また椅子から立ち上がった時に椅子をきちんと元の位置に戻せているかを自分自身の行動から見直してみてください。そして今から実行しよう。

●靴を抜いた時に靴をきちんと並べよう。

●椅子から立ち上がった時に椅子をきちんと元の位置に戻そう。

次に応対ですが、人間は応対によつて泣いたり笑つたり、すべつたり転んだりしていると云つてよいでしょう。人生はほとんど応対だと云つてもいいのです。喜怒哀楽はこの応対によつて起こってきます。

この応対を身につけるために何を学ぶべきかについては、後ほど説明します。次に進退ですが、いかに進み、いかに退くか、人間というのは出かたがあり、引きかたがあります。いつやるかということが大事なことで、腐つた果物みたいにしがみついているようなのは、これは生き恥であります。

●愛も大切

また親を愛し、先生や先輩を尊敬し、友達と親しむことは「大学」の中に書かれている「修身・齐家・治国・平天下」をすすめていくための根本であつて、これを幼稚のときに習わせるといふ事が大事なのです。

「修身」とは自らが修養することであり、「齐家」とは家庭をなごやかにすることであり、「治国」とは国を治めることであり、そして「平天下」とは「修身・齐家・治国」がうまくいって初めて世の中がうまく取まるといふことです。

残念ながら現在はこのような基本的なことを忘れてしまつて、自分さえよければそれで良いのだという考えが主流になりつつあるように思われます。

人間は絶え間なく「灑掃（さいそう）・応対・進退」について練習・努力すれば、それが身に付いて無意識的に行動するようになります。

我々の正しい生活とは「習慣の織物」といつても良いでしょう。従つて子供の頃に良い躰（しつけ）を身に付け、大人になつてもよい習慣をつけることが何より大切であります。

井上 昌幸

いのつえ まさゆき ●1940年1月1日生まれ。1961年大阪府立大学工業短期大学部卒業。1961年日本電気硝子（株）入社。2000年日本電気硝子（株）定年退職。現在、滋賀県興業種交流連合会副会長、STEPI 21（滋賀県シニテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組合）専務理事、滋賀県技術アドバイザー、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人

資格/ISO14000&9000審査員補

「生活者M・O・Hの会」がなぜ必要になったか ～環境をこれ以上悪化させないために～

講演／循環型社会システム研究所 代表 森 建司

■平成16年6月9日(水)

■情報館eプラザ



6月9日情報館eプラザで「野洲町生活学校」が開かれました。テーマは「生活者M・O・Hの会」がなぜ必要になったか。

M・O・Hの会より、森建司代表が講演しました。野洲町地域住民の方が27名ほども参加してくださり、熱心に取り組んで頂きました。講演内容は次のとおりです。

1 環境の悪化はなぜ起こったか

(1) 環境の限度を越えた経済の拡大

私は、NPO法人・エコ容器包装協会の理事長を務めて参りました。発足当時は平和堂さん初めそうそうたるメンバーで環境負荷を減らす包装を推進しようと活動してきました。しかし、4年経って、包装は減るどころか、ますます増加しました。個食化、少量化、多品種化、ペットボトル飲料の増加などが原因です。メーカーは増産する努力はしても、減らす努力は出来ないのです。そこで、発展的に解散することになりました。

デジタル家電、携帯電話の普及は暮らしを便利にしました。しかし、人を幸せにしたでしょうか？ 売る側がニーズを生み、作り、販売し、利益を上げています。

(2) 企業間競争は大量化が決めて

企業間競争は戦いです。われわれに辛抱させないのです。競争は量と金額で優劣が決定します。企業は常にコストダウン、品質保証、デリバリーを競い合います。負ければつぶれる。過酷な競争です。機械化が加速し、早くたくさん生産します。宣伝をかけ、大量に売ります。

(3) 経済は生活を支え命を守るものではなかったか

アメリカのウォールマートでは、車の運転中に片手で朝食が食べられるようにチップスなどが入っているカップ状の食品が流行していると聞きます。単品で世界中のマーケットで30億個を販売しているようです。かたや日本のおたくくソースは「家族で団欒お好みソース」を商品化しています。どちらが、私たちの暮らしや環境を配慮しているでしょうか。アメリカは環境を無視して、経済最優先で戦争をしています。今や、家庭では一人に1台、テレビがあるじゃないですか。家族の会話が減っていませんか。

2 経済至上主義からの脱却

(1) 安いことは絶対条件か

昔は鶏を飼っていました。子どもが鶏のえさ係です。私も可愛がつて育てました。父が「お客がある。ご馳走にするため鶏をつぶす」というのです。鶏は首をひねられ、毛をむしられ、焼きに姿を変え食卓に出たのです。手を合わさずにはいられません。口にするか何ともおしいのです。すべてをいただきます。

今は、肉の部分がパックになり、スーパーに並び、売れない部分が、大量の食品廃棄物になっていきます。腿肉を増やす研究もされています。インフルエンザ

になると何万羽が殺されます。鳥は経済の犠牲になっていきます。

(2) 品質は誰が見極めるのか

イギリスでは成人すると仕立て屋さんでいいスーツをあつらえます。大切に育て、老人になると多少擦り切れ、そして手入れの行き届いたスーツにステッキ、帽子がカッコイイ紳士のスタイルなのです。我が家では、子どものために親戚から回してもらった服には目もくれず、ユニクロで「安いから、もつたいたくないんや」と言う論理で、毎シーズン服を買っています。そして家はものであふれかえています。

3 「消費は美德である?」

(1) 辛抱は悪徳である?

どんな資源を使い生産し、販売し購入し豊かな暮らしを実現しました。辛抱は悪徳なのでしょうか。私たちは、辛抱する気持ちまで失ったのではないのでしょうか。

(2) 人の幸せとは何かを考えると

経済だけを豊かにすることが、本当の幸せでしょうか。サド伯爵が書いた「悪徳の榮え」の中に出てくる世界は現在とオーバーラップします。究極の快感は殺人に至る行為だと、明言しています。サド伯爵が現在の事件を見ると「理想郷だ」と喜ぶのではないのでしょうか。

4 個人の「おもい」を抹殺した洗脳

(1) 経済の基本は洗脳教育にある

宣伝、流行は巧妙に作られた、マーケティング戦略です。新しい機種が出れば

欲しくなる、持っていなければ恥ずかしい。今、必要ではないけれど買ってしまう。私たちは洗脳されているのかも知れません。自我を見失っているのです。

(2) 自己を失ったまま(テレビでみたまま)

子育てをするとき、本やテレビを信じていませんか？ 子供はそれぞれ違うのに、マニュアルどおりでないから、不安になるのはナンセンスです。「ももちの木」を読んでください。感動します。

5 「哲学」は知識でも情報でもない

(1) 無学文盲の人にも立派な哲学がある

私の祖母は字がかけなかった。でも子どもを商人にしたかった。そこで「人間はかんじょうの動物や、そろばんは大事やで」と教えます。私は「ばあちゃんまちこつてる。感情やで」祖母は「何いうてんねん。犬や猫も怒りよる。銭勘定は人間にしかできん」これも立派な哲学です。

(2) M・O・Hと哲学の関係

「問い」人を殺してはいけません。なぜですか？

【答え】駄目なものは駄目だからこういえることが大切です。「お天道さんが見たはるから悪い事は出来なない」こういう思いが今、必要です。

6 生活者の意識が世界を変える

真の実力者は誰かを示すとき

世の中を変えるのは女性です。「買い物で世界を変える」のです。大切な事は、意識を変え、伝え、広めることです。



生活者M・O・Hへの ご支援を

あなたの生き方を変える一言を教えてください。集めて後世に残しておきたいのです。

●古くてもよいものは大事にしながら、時代に合わせた生活をする。人生は循環しているんですね。森先生の

お話は一つ一つ身にしみました。懐かしい思いです。
：黒田 昭子

●夜型の生活になつています。早く寝て早く起きる、昔の習慣に変えればよいだろう。辛抱はお金です。明日にしようと思えば忘れません。

●「水魚の思い」：湯沢 美智子 71歳
●「ちよつとの辛抱」二、もつたいない
私は戦中戦後を生きてきました。国民全員が辛抱しよう、もつたいない、物を大切にという教育を受けてきました。今日も30年前の服をリサイクルしてきました。先生のお話を聞き、胸を張って皆さんに観ていただきます。買うときは思い切つてよいものを買ひ、大切に装着して時代が変わり古くなれば自分で直すのがモットーです。：井 道子 74歳

●お話を聞いて感動しました。：荒川 洋子 69歳

●「しまつはしなくてよいが始末をちゃんとしろ」

「食べるものや着るものは「しまつ」をしなくて良いが、頂き物や冠婚葬祭、行事など最後まできちんと「始末」できる

嫁になれ」と父から教わりました。：57歳

●現状の日常生活に慣れ「消費は美德」「消費が社会経済を豊かにする」と思ひ込んでいます。今日のお話で今一度、日常生活を見直し個人から地域へと広げたい。
●「いたわりの心、感動する気持ち、興味を持って前向きに」

「ほどほど」と言う考えが世界を変えていく。文明の機械の発達を人々を幸せにしないというお話はそのとおりだと思います。物と人を大切に、いたわりの心を持つて接する事を痛感しました。：水鳥 左知子

●母から「たらいの水を、手で押すと、こちらに流れ、寄せると向こうへ行く」と洗濯しながら教わりました。良い行動は人の為ではなく、自分に帰ってくることを学びました。：落合 房子

●使わない物まで買ひ物をしていたよな気がします。今日いるものだけを買ひ習慣をつけたい。
●商売されてるお宅に伺つた際、ピアスをした茶髪のお兄さんが「おかげさまで、忙しくぼちぼち儲けさせてもらつています。」と挨拶してくれました。彼はおぼあさんに育てられたとのこと。優しい孫だそうです

●5年前に新築したとき、主人は出勤の合間に土を足でこねて壁土をこしらえていました。家の大切さ、野菜を粗末にしないよう、家人に教えています。
●結婚した時は母から「捨てたらもつたないから、買ひ物は午前中にその日の分だけ買う事」と教わりましたが、今は保存が出来るのをいいことに、食べないものまで買う始末。気をつけます。

●大地に感謝、土に感謝、自然に感謝の気持ちになりました。人の顔を見て、目を見て話す事の大切さ。私は「忍」の一字が好きですが、今はしゃべらないと渡れない世の中が、悲しいです。：出野 初子 62歳

●母から物を大切にすること、特にお米の話がよく聞かされてきました。母の躰のおかげで子どもは食べ物を大切にお弁当もきれいに食べてくれます。主人の母が誉めてくれました。：米野 明美 62歳

●「日々の感謝」
贅沢な生活に慣れていますが戦中戦後を生きて、本当にもつたないことが多いと思ひます。若い人に啓蒙してください。
：井上 美智子 73歳

●「お天道様は見ているよ」
誰も見ていないからちよつとぐらいい。でもお天道様は見ているよ。良い事も悪い事も。悪い事はせつたいタメ
●何か一つ見つけて、生き方を変えたいと思ひます。：新井 泰子 65歳

●「自分の目で品質を見る」
私に出来ることは、無駄をなくし良い品を見て買ひ物に生かしたい。もつたない捨てられず、ゴミの多い家の中です。
：竹田 晴子

●「悪い所を切つてもらつて、何も心配する事はない」
11年前に癌を患つたとき主人に言われました。この一言で元々明るい私になり、現在楽しく暮らしています。：小林 智世子 72歳

●「年相応だよ」
髪が薄くなる、物忘れする、動作がのろくなる。クヨクヨしてたら主人から、この一言。これでいいんだ頑張ろう。：稲 田

●「ありがたいこと」
これはおすそ分けをいただいた時の母の一言です。人間社会の中で小さなことにも感謝しよう。対人関係もうまくいくかも。：金谷 洋子 62歳

●「心、物を大切に」
心や物を大切にすることが人間や

生き物が住みよい場所になるのでは。
●「人間死ぬまで勉強」
年をとつても頭を使い、勉強して努力すれば人と交わりが出来、良き人生が送れると思ひます。
●「金を貯めることより、子どもの成長が財産だと思ひ、身体に気をつけて働け」
主人が亡くなった時、会社の上司が言つてくれました。

●「使ひ捨て時代の嘆き」
今はおかげさまを忘れた時代ですね
●「自然に生きる、自然と共生する」
経済至上主義をもう一度考え直そう。
：水野 圭津子

●私たちは祖父母、両親から聞かされて育ちましたが、子どもたちに伝えたくとも、なかなか判つてもらえない現状です。同居する一祖母として自信を持って伝えたい。M・O・Hが合言葉になるように。

●携帯電話は必ずしも人を幸せにしない若い人は、人と向き合つてコミュニケーションが取れない。語尾の上げ下げも感情の行き違いを生じる。：梅村 瞳 70歳

●生活学習会の活動をほどほどにしていましたが、もつと学習しようと思ひました。ありがとうございました。：梅村 洋子

皆さんの熱心で熱いお言葉に感謝します。ありがとうございました。

文中敬称略(まとめ)辻村琴美



《M・O・Hの会》入会受付中

あなたも「M・O・Hの会」に入会なさいませんか。3000円で、会員になれます。会員特典として、M・O・H通信、会員交流会 講演会のご案内をいたします。ご近所お誘い合わせの上、ご入会ください。活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

あなたのお名前、年齢 郵便番号 住所 電話番号 fax(あれば)、email アドレス(あれば)、あなたの心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書を fax 郵送mailでお送りください。

キリトリ線

《M・O・Hの会》入会申込書

フリガナ		年齢	
お名前			
住所	〒		
電話		FAX	
メールアドレス			
あなたの心に残った一言を書いてください。			

「循環型社会を目指す～M・O・Hの会～」の 発足に当たって

代表 森建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する、こころとか思いを取り戻さなければならない。死生観とか人生観、先祖とか子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～M・O・Hの会～」を設立する。

あなたも「家訓10か条」を作ってみませんか？

家族で守る事、忘れない事、挑戦する事、心がける事などなど一度、考えてみてください。父と母とお子さんとおじいさんとおばあさんと、忘れかけてる何かが見えてくるかもしれません。新しい時代を素敵に環境にするため、トライしてみてください。家族でも、グループでも構いません。一度、事務局まで、ご連絡ください。ご相談いたしましょう。

「環境倫理経営理念」に チャレンジしてみませんか？

世代交代&時代の変革についていけず、経営方針にお悩みのかた、また、未来型企業にむけて変革をお考えの方「環境倫理経営理念」にチャレンジしてみたいかですか？こちらもお申し出下さい。担当者が伺います。実験的な試みに挑戦してください。

問い合わせ先は、下記M・O・Hの会事務局」まで

《10月号予告》9月発行予定

特集:「家訓10か条」環境倫理経営理念を考えてみませんか
連載:作家 今関 信子さん「みんな みんな みんなだよ」
連載:龍谷大学助教授 本田 裕志氏
連載:森 建司氏
連載:井上 昌幸氏「小学の教え」
挿絵:佐々木 洋一氏
漫画:しみず やすお氏
写真:辻村 耕司氏

「編集後記」

本誌の創刊をはじめ、最近モラルの向上についての関心が各方面で高まって来ました。そこで、M・O・Hの会の運動も具体的に、家庭では「家訓制定」、企業では「環境倫理を経営理念に成文化すること」を目標としてはどうだろうか、これは、編集部内での議論です。実現化に向けて、ご協力をお願いします。…「建」

捨てる勇気といえは聞こえはいいが、あきらめることを学んだ。苦節十年自分の選択眼はどうだろうか？死んではいけないので正しかったのだ。ただ、もう少し、自分を信じた行動が出来ていれば、違ったかも。いつも私は、自信がなかった。居直る肝っ玉を持ってなかった。素直ないい人でいたかった。ちよつと後悔、残された半生は長いかもしれない、わがまましてもいいのかも。あつそうか！だから、オバサンはわがままなんだ。…「琴」

M・O・H通信 Vol2

2004年7月20日発行

編集・発行 循環型社会システム研究所 M・O・Hの会

M・O・Hの会事務局

循環型社会システム研究所(新江州株)内)

代表 森建司

編集長 辻村 琴

〒526-0111 滋賀県東浅井郡びわ町川道759-3

TEL 0749-72-5277 FAX 0749-72-8681

email tsujimura@shingoshu.co.jp

【会費振込先】

M・O・Hの会 代表 森建司

滋賀銀行 長浜支店 普通 817 136987

長浜信用金庫 本店 普通 002 0577468